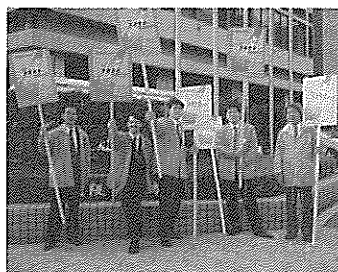


CBCニュース



五月二、四日の三日間、大阪で全国聖会が開かれた。三年に一度の全国聖会。神学校の修業年数は普通三年または四年なので、ほとんどの学生は、神学生として参加するのは最初で、最後である。メッセージを聞くために参加するだけだった時とは、多少の違いがある。一日の朝、チャペルにおいて、中央聖書学校の教授であり、また、教団理事でもある菊地和博師から「喜んで仕える者になるように」と励ましを頂き、学生一同、熱い祈りを捧げた。そして、



午前中の授業の後、夜十時半、夜行バスに乗り、一路大阪に向かった。

眠ったような、眠らないような一夜を過ごして、朝九時から、奉仕に入る。神に仕えるのは霊と真とをもつて...とは言うものの、こうなると体力である。関西分校で学んでいる二名の学生も加わって合計四名で奉仕に当たった。奉仕の分野は実に様々である。受付、会場、警備、会計、進行、こども聖会など、奉仕は決して目の目を見るものばかりではない。聖会の場所を案内するためには、暑い日差しの中、蛍光の黄緑色のウィンドブレーカーを着て、全国聖会のプラカードを持って、ただ立っているだけの奉仕も必要である。また、朝と昼の聖会中は、こども聖会がもたれ、子どもたちにも神の言が語ら

れた。(怪獣や)さがが聖会会場を歩き回っていたのを、ご覧になった方も多いのではないのでしょうか。)そして、夜の集会の時には、大人が聖会に参加できるようにとの意図で、託児を行った。ある奉仕者はこの奉仕で聖会期間中に二キロ体重が落ちたという。本当に、心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くしての奉仕であった。ほとんど神学生は、聖会中、一度も説教を聞くことがなかったが、これらの奉仕を通して、主に仕え、人に仕えることがいかなることであるかを知った。また、翌日の日曜日は、関西教区の一八の教会に別れて、関西の信徒の方々と共に礼拝を捧げた。行く先々で、教会の心暖まるもてなしを受けた。(この場をかりて、神学生一同、お礼申し上げます。)数多くの恵み聞き、集会は盛り上がったのだと、思うと、本当に嬉しく、奉仕の疲れもすべて吹き飛ばそうだった。

静心

机に向かうことが多い。聖書学校での生活。体力の衰えと体重の増加がなんとなく気になる頃、ジョギングを始めた。東京郊外を約一時間、ゆっくりと走る。もちろん、初めはそんなに走ることが出来なかった。堅いアスファルトの歩道を走るので、急激に運動をすることは危険である。歩くことから始め、少しずつスピードを増し、距離を延ばして行く。そして、ようやく一時間のコースを走ることができるようになった。途中、きつい上り坂がある。止まって少し歩こうかなと思うが、もうひとふんばり、と心を入れ替え走り抜く。息が切れ、心臓も飛び出そうになる。しかし、しばらく走っていると風が吹いて来たように爽快な気分になる。運動生理学上セカンド・ウィンドと言われるものである。辛い運動をした時、それに適応するために全身が効果的に働くようになり、そこをぐり抜けた時には、本当に爽快な気分になるのである。右脚と左脚を交互に前に出すという、単純極まりない動きのくりかえしが、明らかに体を強め、効果的に働くようにし、きつい坂をも越えさせるほどになる。私たちの信仰生活の歩みも同じである。そして、幸いにもそこには主が共におられる。

(N)

CBCネットワーク

● 一九九六年明けの一月八日から二〇日まで中央聖書学校研究科が開講された。APTSのMalvin Ho師と町田クリスチャン・センタ―主任牧師の杉本智俊博士がそれぞれエペソ書釈義と旧約神学を担当した。

● 第四六回卒業式が三月二二日に中央聖書教会で行なわれ、青木知子、井上直子、内川高志、山脇のぞみの四名に佐布正義校長からそれぞれ卒業証書が手渡された。同時に関東分校の終了式も行われ、鈴木嘉茂、遠藤省三、富山均、山川良一の四名が修了証書を手にした。卒業式について伊藤顕栄理事長により補教師辞令と任地辞令の授与式が行われた。

● 記事に掲載されているように、三月一五日から二五日にかけて、中央聖書学校四年生が二組のキャラバン隊

に分かれて中国教区・四国教区をそれぞれ巡回した。中国教区組は広島神愛、広島、宇部、岡山、境港の教会を訪れ、四国組は讃岐、須崎、新居浜、徳島、高知、清水、中村、松山、土佐清水を訪れた。

● 一九九六年度入学式は四月九日午前一〇時より中央聖書学校チャペルで行われ、九名の本校生が列席した方々の祝福を受けた。これで関西分校に入学した本科生一名を加え、合計一〇名が入学したことになる。図書室では将来の国際的ネットワークを考慮して、今までの十進法式図書目録システムから、世界的に共通したLC (Library of Congress) システムに変換作業を行なっている。この作業が完結するのは一九九七年末の予定である。

● 教務室にペンティアム133 Mhz、Ram 16、15インチモニター、1、2

GBハードディスクを購入。CBC教務室にある膨大なデータのコンピュータ入力の作業が始まった。

三編集後記

新年度を迎え、CBCニュースを皆様のお手元にお届けできますことを感謝いたします。今回は従来アッセンブリー誌で掲載されておりました新入生の証しに加わり、内容もページ数も二倍になりました。これからのより多くの方に、神学校のことを深く紹介していくとともに、もっと身近に中央聖書学校を感じていただける新聞を作っていきたいと思っています。

編集責任者 北野耕一
新聞部員 前田謙仕、野崎晃美、山田博、長沢牧人、別宮建一、ステイプ・ピーターソン
事務局 中央聖書学校
豊島区駒込三二一五二〇
TEL 〇三―三九一八―四九二五
FAX 〇三―三九一八―四〇六四

中央聖書学校後援会から

入会のお願ひ

中央聖書学校が教団の伝道者養成機関として発足以来、すでに四十六年を数えておりますが、その間多くの方々のご協力と献げ物と奉仕によつて幾多の伝道者、働き人がこの学舎から輩出されたことは感謝であります。

さらに学校の設備に充実とゆとりある運営がなされるためには、多くの方々のご賛同を必要としております。どうぞこの点をご理解をいただき、是非本会にご入会くださるよう心よりお願い申し上げます。

中央聖書学校後援会

会長 山田 亘

後援会入会要領

個人会員 一口 年額 五千元
法人会員 一口 年額 一万元

連絡は中央聖書学校内後援会宛にお願いいたします



私たち新入生です

御手のなかで
私が献身を考えるようになってからは「神の御心はあなた方が聖くなることです」という御言葉を与えられてからです。それ以後、献身の思いが弱くなりかけたこともありました。あなたが私に「従いなさい」(ヨハネ二二章)、「私は全能の神である。あなたは私の前を歩み、全き者であれ」(創一七章)という御言葉や多くの恵みによって励まされ導かれていくことを感謝しています。私は弱く小さい者にすぎないですが、神様は「私は、弱い人、弱いところを用いる。強いが弱いかではない、捧げるか捧げないか」と何度も

御手のなかで



別宮健一

した。その結果として、私は今の神学校にいます。
私は、この日本で神様の御言葉を伝えていきます。

ダビデの石 で学んでいます

ご存知のように「ダビデの石献金」とは、中央聖書学校の神学生奨学金制度の名称です。神学生を経済的にサポートすることを通して宣教拡大の一端を担い、御国の働きを前進させようとの呼びかけによってはじまりました。

語りかけてくださいました。今私の持つていくすべてを捧げ、神様にゆだね、神の御手によってよりよい器につくりかえられたいと思っています。神学校のなかで様々なことがあると思いますが、御手の中にあることを覚え、神に喜ばれるように歩んでいきたいと思っています。

一九九二年度教団総会で基本路線が確認され、翌年の総会で正式に承認、募金が始まりました。現在年間目標額は六〇〇万円。全国諸教会のあつた支援によって支えられております。神学生が中央聖書学校で学ぶ場合に必要となる費用は、書籍や日常生活にかかるお金をのぞけば、おもに学費と寮費です。
学費が二、〇〇〇円(当教団に籍がある場合六、〇〇〇円は教団から支給)×二、寮費が三〇、〇〇〇円×九で一年間合計三三、〇〇〇円になります。三年の在学中で約一〇二万円、四年で約一三六万円です。現在奨学金はおもに学費と寮費の支給に用いられているのです。
一九九四年度入学生から支給になりましたが、その年に給付生が三人、翌年が八人、そして今年は一三人となり、学生全体の三割がこの献金によって支えられています。その中から一九九五年度入学生の菅田いずみさんに、ダビデの石献金について語っていただきました。

私は神学校に入ってから一年と少しになりますが、その中で教えられることのひとつは必要を満たしていただく神様の恵みです。私は自分で得た収入によってではなく何の働きもなく与えられるものによってこのでの生活を支えられています。というのも、私は学生から献身したため蓄えはなく両親からの仕送りも献金と同時にいただいています。しかし、ダビデの石献金によって学費や寮費をまかなえることになり、その他の必要もその時々で備えられるという経験をさせていただきました。「ない」ということから全面的に主が与え養ってくださることを知ることができました。最後に、この文を書くにあたって、私は背後にある多くの祈りと献げ物によって今の自分があることを改めて思い返すことができました。この大きな恵みをいつの間にか当然のように思っていた自分に気付かされ、また恵みのひとつを数えることができたことを感謝します。

菅田いずみ

聖書と考古学

生ける神

ダビデ・ハイムス

「生ける神」は最初にバアルと異なった神、周期的な豊作を迎えるための神ではなく、変わりなく、創造主であることを論争する。しかしこの戦いに絞ったイメージは「生ける神」を支配する旧約聖書思想ではない。「生ける神」はイスラエルの信仰の中で重要であった歴史思想に密接に関わるものである。ヨシヤ三・一〇〜一一は「生ける神」が「救済史の神」であることを示す。「生ける神」

があなたたちの間におられることをこれをおして知るであらう。それはあなたたちの前からカナン人、ヘト人、ベリジン人、アモリ人、エブス人を完全に追い払う。全地の主の契約の箱があなたたちの先に立つてヨルダン川を渡って行く。「この文書には神が直々に時間と空間の流れの中に入り、救いの業を起こす。神は抽象的な思想ではなくイスラエルと我々の現実の旅に参加する御方である。

る。「一節の「全地の主」が一〇節の「生ける神」を深める聖句であって、ヨルダンまたは紅海を渡るための危機の神だけではなく、つねに救済をもたらすものであることをしめす。危機の場面は多数旧約聖書に記録されている。その中でも、ダビデとゴリアテの対面が目立つ。サム上二七・二六と三六には「生ける神」の名称が使われている。この文書、両方には生ける神の戦列「イスラエル

軍」がゴリアテによってあざけられている。主が「生ける神」であるから彼の軍隊は彼の業に頼るしかない。そして、ダビデが、生ける神の勇士にふさわしくゴリアテに立ち向かうと神の存在がイスラエルに公開される(サム上二七・四六)。主が救済史の内に勝利を与えた。「生ける神」、この名称には異教の神々にまさる告白と歴史の内に救いをもたらす御方であることを示す。

シリーズ献身 Vol. 6

菊地和博先生

「献身」

私は「だれを遣わそう。だが、われわれのために行くだろう。」と言っておられる主の声を聞いたので、言った。「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」

イザヤ六章八節

献身の時与えられたみことばは何ですかと問われる時、やはりすぐ思い浮かぶのはこのイザヤ六章八節です。このみことばは私が育った浜松キリスト教会の礼拝で、私の中

高生時代によく語られたように思います。牧師が献身者が起こるように常に心掛けていたもので、ここから説教されることが多かったのかもしれない。私は中学三年の時に、イエス・キリストを自分の救い主として受け入れ、洗礼を受けました。牧師の家庭に育った私でしたが、ほんとうに主体的に自分の罪を自覚し信仰を持ったのはこの時期でした。幼少の頃に犯した罪を悔い改

め、イエス・キリストの十字架の贖いを心から信じ、罪赦され滅びから永遠のいのちに移され、主からの平安と喜びの日々が始まりました。その頃から毎年のように、東京駒込本部で持たれる全国聖会に出席するようになり、聖霊の臨在を強く感じ、聖霊のバプテスマを求めるようになりました。実際聖霊のバプテスマを受けたのは三年後の東海聖会に於いてでしたが、献身への思いは特に全国聖会

において与えられました。毎年の全国聖会で、弓山先生が「一切を捨てて、命を捨てて、主の福音のために献身する者よ、立ち上がれ」とメッセージ下さり、毎年のように立ち上がって献身を表明しました。滅びゆく魂のために、自分のすべてを献げる、これ以外自分の進むべき道はないと思い、踏み出したのです。以来三十有余年、初心忘るるべからずと自戒しつつ伝道、牧会の間にあたらせて頂いています。

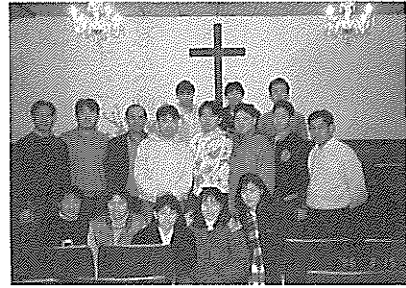
中国・四国教区の皆さんお世話になりました

キャラバン伝道 中国教区・四国教区 巡回 3月15日～25日

キャラバン伝道 巡回記

去る三月一五日から二五日にかけて、三年生による神学校恒例キャラバン伝道が行われた。このキャラバン伝道は、全国諸教会の神学校に対する尊い祈りと献金に対する感謝を表すこと、神学校のアピール、献身者の発掘を目的として、北海道、南は沖縄の各教区を巡回するというものである。今年度は学年の人数が一五名と多いため中国教区と四国教区の二班に分かれての巡回となった。

三月一五日、朝五時に集合。石原師(四国教区)と北野師(中国教区)の引率の下、四台の車にて出発した。二時間おきに休憩(運転手の交代)を取りながら午後四時四五分、岡山神召教会に到着した。中国巡回班はここで二手に分かれ、一班は岡山を中心として巡回し、もう一班は広島の一部を中心として巡回が始まっ



た。また、四国巡回班は、瀬戸大橋の雄大さと夕日のすばらしさの中、六時三〇分に讃岐栄光キリスト伝道所に到着。夕食の後に信徒の方たちとの交流会が持たれ、楽しいひとときを持つことが出来た。四国巡回班はこの讃岐を始め、徳島、高知、土佐清水、中村、須崎、松山、新居浜の順番で、毎日移動しながらの巡回と行う強行軍のスケジュールの下に行われた。讃岐では、安東先生(私たちの二期上の先輩)と共に楽しい時をもつ事ができ、また伝道集会で二名の決心者が与えられ、とても幸いであった。徳島、松山、

新居浜での巡回は、聴覚言語障害者が多くおられたこともあって、手話を習いながらの働きがなされた。田中先生、和田先生、楠先生の力強い手話に、まさに言葉が生きて伝わってくる様を見ることが出来たこと、また、信徒の方々がとても生き生きしていることが印象的であった。高知、土佐清水、中村、須崎での巡回は、各先生ご夫妻との交わりと信徒の方々の賛美集会が持たれた。各教会が神様の豊かな導きの中で建てられていったことや、信徒の方々の喜び、恵みに満ちている様が印象的であった。

中国巡回は、二〇日を境に四班に分かれた。一五日から一九日まで、岡山班(岡山、福山、境港)と宇部班(宇部)で奉仕をし、二〇日以降は、三滝班と広島班に分かれた。宇部は昨年牧師が代わったばかりであったが、いろいろな奉仕の中、神の働きが豊かに現されている様を見せて頂



いた。また、福山では、つい先日卒業された内川高志師の就任式が厳かな中執り行われ、来年自らが体験するであろう緊張の一時を味わった。また、二〇日に行われたC・Aフェスタは想い出となった。多くのC・Aの方々と賛美にゲーム、証やスキットなど楽しい一時を持ったが、北野師により、一つのパンと一つのグラスを持ち、聖霊の豊かな臨在の中、聖餐式が行われ、一同恵まれて、その場を後にした。多くの先生方、信徒の方々にはいろいろお世話になりました。祝福を心よりお祈りいたします。

はしめし 私たち新入生です



渡辺 岳見

私は大学三年の時参加したC Aキャンパスから献身を考え始めました。そこでは、D・マックレーン先生から日本のリバイバルについて語られました。その時まで何度かリバイバルについて聞いていましたが、この時初めて神様がこの国を愛し、この国に大きな計画をお持ちであるというこ

しみを覚えていました。真剣に自分の道を祈り求めた時に、御言葉が与えられ、「私の全てを捧げます。」と祈った瞬間に、溢れる喜びと平安に満たされ、御旨であることを確信しました。主が、このような者を伝道者として召して下さり、今ここにあることは、ただ主の一方的な恵みです。さらにイエスを深く愛する者に変えられていくことを心から願います。

とを確信しました。そして私も神様のお役に立ちたいと思うようになったのです。その後大学を卒業し、社会人となり二年目の夏に献身を表明しました。しかし表明したもの、弱さばかり感じて、仕事の出来る先輩が幸せに思えたり、私は神様のお役には立たないと思ったりしました。そのような時神様は祈りの中で、彼らは幸せそうに見えるが最後はどのようなになるか分かるだろうと、又そんな彼らをも神様はあわれんでおられることを示され献身を新たにしました。

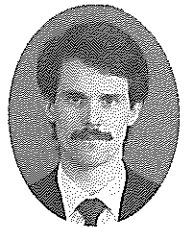
この三年間そしてその後も与えられたマラキ書三章一三〜一八節を思いながら、日々神様に仕えていきたいと思っています。



私は以前はクリスチャンではありませんでした。宗教はいらないと思っていました。でも、辛い時、生きたくなかった時、私は神様に叫びました。すると、神様の臨在とその力を感じました。そして「まことの神様、全能の神様は本当におられる」とは分かりました。が、神様への道はまだ分かりませんでした。

その時から、神様を探しに様々な宗教を学びました。アメリカのニュー・エイジから日本の禅まで勉強しましたが、そこにまことの神様を見つけたことは出来ませんでした。そして、キリスト教に立ち帰りました。

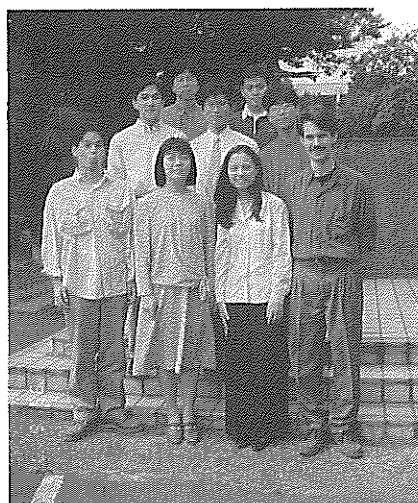
私はイエス様の愛を、二年前日本に来てから、松任キリスト教会で知りました。そして、クリスチヤンになってからいつも神様の御心が分かるように祈っています。



スティープ・ピーターソン

愛犬ソフィー死去

さる五月三日、石原先生宅の愛犬ソフィー(雌)が享年一五才の長寿を全うして死去した。ソフィーは生まれたばかりの一五年前、石原先生に引き取られて以来、この駒込構内で神学生とともに暮らしたカワイイ仲間でした。あのなんともいえずに愛敬に満ちた、憎めない顔を思い出すO Bの先生方も多いことでしょう。とても繊細で優しい気持ちの持ち主でした。照れやなのか、男子学生が苦手だったようです(これについてはいろいろな伝説があります)。老衰がすすんだソフィーは、石原美智子先生が全国聖会に出発前夜、急に元気な姿を見せ、飼い主を安心させました。そして見送りがすんだ翌日、静かに息を引き取ったのです。ソフィーは死を予感していたのでしょうか。美智子先生は「いぬは飼い主に死ぬところを見せない」という言葉を思い出したそうです。



特別企画

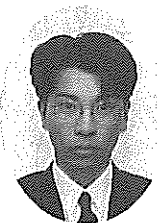
はじめて 私たち新入生です

主の御名を心から賛美します。主によって導かれ駒込の地に來ることができ感謝しています。私は両親がクリスチャンという家庭に育ちました。幼い頃から教会に足を運んでいたのですが、救われたのは高校生の時です。献身の思いが与えられたのは四年前で「どうか神様の御心であるならばお言葉を与えて下さい」と祈る日々を過ごしました。その時与えられた御言葉が「わたしがあなたを遣わす。どんな所へでも行き、わたしがあなたに命じるすべての事を語れ。」でした。私はこのことにより神様によって召し出された事を確信し、主に「私には弱さがいくつもありますが主に更に従います」と祈りました。私は小さく、又、弱い者ですが聖霊様に助けて頂きながら主の有用な器と愛えられたいと願っ

沼田千晴



長谷川忠幸



学校の中でいじめられる子は二通りあると思います。一つは自己顕示が極端にできない人。もう一つはその逆で自己顕示が極端に強い人。私はその後者でした。それに加え両親が牧師であるということは、格好のいじめの的であるわけです。私の小学校時代はそういうわけで暗黒的なものでした。いじめによる劣等感、それを跳ね返そうと自己顕示にでる、そこをまた叩かれる、悪循環の典型でした。そのうち、自分は誰にも認められない哀れな存在なのだと思ひ卑下と自己防衛の世界に逃避しそうなったのですが、誰も認めてくれなくても神様だけは私を受け入れてくれる、という幼いころから両親に教え込まれてきた聖書の価値観が私を勇

三宅由香



「私があなた方に対して抱いている計画は私が知っている。それは災いを与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなた方に将来を与え、希望を与えようとするものである。」(エレミヤ二九章一二節) 今から三年前、一人の伝道師が突然に天に召されたことをきっかけに、主は私に「あなたは、残された生涯を何に使うのか。」と問いかけて下さいました。それまで、従い切れない自分に、常に苦

ています。

はじめて私たち新入生です

生武嗣幸



私は一九九二年五月に献身することを決意しましたが、自分の弱さや無力さを感じ、なかなか神学校に入ることができませんでした。けれども神様はそんな私を選び続けて下さり、御言葉を通して力づけて下さいました。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。あなたには私がついている。」(使徒行伝一八章九・十節)と「これは権勢によらず、能力によらず、わたしの霊によるのである。」(ゼカリヤ四章六節)の御言葉によって、今までの恐れが取り除かれませんでした。そして、神様が何の能力もないと思っていた私の中に価値を見出し、選んで下さったのですから、神様が私を鍛え上げて福音の業のために用いて下さるにちがいないと確信し、献身することができました。

これからも私を育てて下さる

聖霊様と共に、安心して進んでいくことを感謝し、またすべてを認め、すべてを祈り、主の訓練に耐え忍んで勝利していきます。

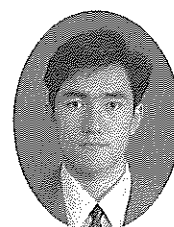
後登雅博



「……らしくない」

赤い主イエスの血潮にて私が罪きよめられたり過去の歩みによることなくラッパの音聞きながら天上にて再臨の主にまみゆ 闇から光へ移されたる魂も肉も主に捧げん ましてやこの世の歩みなどなして捧げまつらんや 遥かなる御国を思いつつはるばる行かん地の果てまでも 悩む世人を主のもとに 迷いし羊を主のもとに ただ主にすがりてわれ祈るやがて来られるその日に備え 三年間の訓練を

高木順一



私は牧師家庭に生まれ育ちました。そして、牧師としての父を深く尊敬していました。私は父の牧会の様子を見て、その生き様にあこがれました。けれども、大人になるにしたがいこの仕事ほど困難で孤独な仕事はない、と思うようになりました。神に召されているのだという自覚がありながら、私は別の生き方をさがしました。自分を偽って生きる、これほどつらい人生はない、と思います。人

ラボニに委ねて従いまつる 渴ける我は上よりたもう 和解をなしし主の愛を 証し続けん我が生涯にて 「私が福音を宣べ伝えても、それは誇りにはならない。何故なら、私はそうせずにはおれないからである。」(コリント人への第一の手紙九章十六節)

生の探求につかれきった頃、私は公園伝道に毎週きてくれた子供達を通して、神が有るがままの私を必要とされていることを知りました。やがてキリストが来られる日、これまでの不従順を責められる以上にこれからの従順の故に誉められることに望みをおいて神の召しに応じました。



イエスは彼らに言われた。「さあ、近くの別の村里へ行こう。そこにも福音を知らせよう。わたしは、そのために出て来たのだから。」(マルコ一章三八節)